

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡA(AB201)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(前半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。さらに、フィールドワークとしてハイスクール茶会の学生スタッフを担い、茶会の企画や運営力を身につけることをねらいとする。							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	炭点前に必要な道具について、説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	ハイスクール茶会の学生スタッフとして参加し、茶会の企画や運営について考え、行動することができる。				茶会参加レポート	20%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	20%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前(前半)」を理解することができる。				点前確認	45%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を45%とし、濃茶点前(前半)を理解しているかを評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については20%とし、濃茶点前(前半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、15回目にポートフォリオを用いて行う。ハイスクール茶会の参加レポートについては20%とし、レポート様式に別途ループリックを記載する。							
授業の概要							
点前については、茶入や仕覆の扱い方を学び、濃茶点前(前半)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。フィールドワークとしてハイスクール茶会の学生スタッフを担うため、茶会に必要な道具準備や開催場所の視察などを行い、茶会の企画や運営について学ぶ。参加後にはレポートを提出する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡAを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠBの単位を取得することが必須である。また、出服紗の購入が別途必要となる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 63～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学GP関連事業(2014年) 指定図書：飯倉晴武著『日本人礼儀作法のしきたり』青春出版社(2007年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いを自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・授業で学んだ点前は必ず稽古すること。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

火3クラス、水2クラス、金3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。 (安部・柳井)	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~80 を読み、 予習・復習をする。
2	・ハイスクール茶会の概要	ハイスクール茶会の概要について確認する。 (柳井)	開催概要を確認する。
3	・ハイスクール茶会の準備①	ハイスクール茶会で必要な道具の準備を行う。 (柳井)	茶会に必要な道具を準備する。
4	・ハイスクール茶会の準備②	ハイスクール茶会で必要な道具の準備を行う。 (柳井)	茶会に必要な道具を準備する。
5	・ハイスクール茶会の会場視察	ハイスクール茶会の会場を視察し、担当ブースについて把握する。 (柳井)	開催マニュアルを読み、会場のレイアウトなどについて確認する。
6	・フィールドワークとして、 ハイスクール茶会に参加	ハウステンボスで行われるハイスクール茶会の運営補助を行い、もてなしの実践について理解を深める。 (安部・柳井)	ハイスクール茶会の趣旨を確認する。
7	・濃茶点前の導入 ・濃茶点前 (前半) (釜の蓋を開けるまで)	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 釜の蓋を開けるまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 81~85 を読み、 予習・復習をする。
8	・濃茶点前 (前半) (茶碗を拭くところまで)	柄杓の引き違いをし、茶碗を拭くところまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 p. 85 を読み、予 習・復習をする。
9	・濃茶点前 (前半) (茶碗を取り込むまで)	抹茶を入れて、服紗の片手さばきをし、茶碗を取り込むまでの流れを確認する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 86~89 を読み、 予習・復習をする。
10	・濃茶点前 (前半) 稽古①	濃茶点前 (前半) を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~89 を読み、 予習・復習をする。
11	・濃茶点前 (前半) 稽古②	濃茶点前 (前半) を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~89 を読み、 予習・復習をする。
12	・濃茶点前 (前半) 稽古③	濃茶点前 (前半) を確認する。 (柳井)	教科書 pp. 81~89 を読み、 予習・復習をする。
13	・点前確認	濃茶点前 (前半) についてどこまで理解しているか確認する。 (安部・柳井)	濃茶点前 (前半) の完成を目指す。
14	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。 (安部・柳井)	点前確認を振り返り、自己評価する。
15	・炭点前 (風炉) ・小テスト	炭点前 (風炉) を確認し、概要を理解する。 (安部・柳井)	教科書 pp. 63~69 を読み、 予習・復習をする。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡA(AB201)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(前半)の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。さらに、フィールドワークとしてハイスクール茶会の学生スタッフを担い、茶会の企画や運営力を身につけることをねらいとする。							⑨⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	炭点前に必要な道具について、説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	ハイスクール茶会の学生スタッフとして参加し、茶会の企画や運営について考え、行動することができる。				茶会参加レポート	20%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協働できる。				授業態度	20%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「濃茶点前(前半)」を理解することができる。				点前確認	45%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を45%とし、濃茶点前(前半)を理解しているかを評価する。なお、点前確認の範囲については、別途指示する。点前確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。授業態度については20%とし、濃茶点前(前半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートについては10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行い、回答例などをフィードバックする。小テストについては5%とし、15回目にポートフォリオを用いて行う。ハイスクール茶会の参加レポートについては20%とし、レポート様式に別途ループリックを記載する。							
授業の概要							
点前については、茶入や仕覆の扱い方を学び、濃茶点前(前半)を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画を予習・復習に用いる。フィールドワークとしてハイスクール茶会の学生スタッフを担うため、茶会に必要な道具準備や開催場所の視察などを行い、茶会の企画や運営について学ぶ。参加後にはレポートを提出する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など1,500円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡAを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠBの単位を取得することが必須である。また、出服紗の購入が別途必要となる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 63～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学GP関連事業(2014年) 指定図書：飯倉晴武著『日本人礼儀作法のしきたり』青春出版社(2007年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いを自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・授業で学んだ点前は必ず稽古すること。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

水1クラス、水3クラス

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前総復習 ・客作法復習	茶道文化 I で学んだ薄茶点前と客作法を復習する。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~80 を読み、予習・復習をする。
2	・ハイスクール茶会の概要	ハイスクール茶会の概要について確認する。	開催概要を確認する。
3	・ハイスクール茶会の準備①	ハイスクール茶会で必要な道具の準備を行う。	茶会に必要な道具を準備する。
4	・ハイスクール茶会の準備②	ハイスクール茶会で必要な道具の準備を行う。	茶会に必要な道具を準備する。
5	・ハイスクール茶会の会場視察	ハイスクール茶会の会場を視察し、担当ブースについて把握する。	開催マニュアルを読み、会場のレイアウトなどについて確認する。
6	・フィールドワークとして、ハイスクール茶会に参加	ハウステンボスで行われるハイスクール茶会の運営補助を行い、もてなしの実践について理解を深める。	ハイスクール茶会の趣旨を確認する。
7	・濃茶点前の導入 ・濃茶点前(前半) (釜の蓋を開けるまで)	濃茶点前の導入として、茶入の扱い方を学ぶ。 釜の蓋を開けるまでの流れを確認する。	教科書 pp. 81~85 を読み、予習・復習をする。
8	・濃茶点前(前半) (茶碗を拭くところまで)	柄杓の引き違いをし、茶碗を拭くところまでの流れを確認する。	教科書 p. 85 を読み、予習・復習をする。
9	・濃茶点前(前半) (茶碗を取り込むまで)	抹茶を入れて、服紗の片手さばきをし、茶碗を取り込むまでの流れを確認する。	教科書 pp. 86~89 を読み、予習・復習をする。
10	・濃茶点前(前半)稽古①	濃茶点前(前半)を確認する。	教科書 pp. 81~89 を読み、予習・復習をする。
11	・濃茶点前(前半)稽古②	濃茶点前(前半)を確認する。	教科書 pp. 81~89 を読み、予習・復習をする。
12	・濃茶点前(前半)稽古③	濃茶点前(前半)を確認する。	教科書 pp. 81~89 を読み、予習・復習をする。
13	・点前確認	濃茶点前(前半)についてどこまで理解しているか確認する。	濃茶点前(前半)の完成を目指す。
14	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
15	・炭点前(風炉) ・小テスト	炭点前(風炉)を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 63~69 を読み、予習・復習をする。